

ブラジャーの着用実態とその問題点  
-消費者教育の立場から-

香川県明善短大 ○森田 陽子 香川大教育 小川 育子 別府大短大 菅 裕子

目的 下着は、人体の最も近いところに着用され、人体への影響が大きく、生理衛生性・活動性などが問われてきた。最近では、ポディーコンシャスなど、人体に関する意識の変化が著しく、下着に対する要求にも変化が見られる。特に、ブラジャーは、「やせる」「よせて上げる」など、体型の補整などといった機能性をうたって、多種多様なものが販売されているのが現状である。このような中で、消費者はどのように選択、購入をし、どのように着用しているのだろうか。その特徴と問題点を探った。

方法 K女子短大およびB短大の女子学生334名およびその母親301名を対象とし、1994年11～12月無記名自記式でアンケート調査を行なった。回収数は学生241名、母親172名、有効回答率は学生72.2%、母親57.1%であった。調査内容は、ブラジャーについての知識、関心、情報、着用実態などで、各項目の単純集計およびクロス集計を行なった。

結果 ブラジャーの着用の効果として考えているのは、胸の形を整える、胸を大きく見せるなどの整容性、および動きやすくするなどの活動性が主である。しかし、ブラジャーに対する不満も、整容性や活動性であった。自分のブラジャーサイズとバストサイズを正しく答えたのは、学生で64人(26.6%)、母親37人(21.6%)と少なく、測定箇所についても正しく理解していたのはどちらも約30%にすぎないことがこの原因と考えられる。サイズや着用方法についての情報源は、学生が通信販売カタログ(37.8%)、雑誌の特集記事(22.2%)に対し、母親は下着売り場販売員(31.8%)を多く挙げていた。